

# 成木地区のバスに替わる「新たな交通の検討」状況と小曾木地区の現状について

## 小曾木地区総合意識アンケートへのご意見

現在集計中の同アンケートで、とても多く寄せられているご意見が「バスの本数が少ない」「コミュニティバス(既存のバス路線を補うため市などが運営するバス路線)を導入して欲しい」というもの。この問題に3年前から第7支会の成木地区では、成木地区公共交通検討委員会を発足し、主に上成木と東青梅駅方面をつなぐ「梅76」路線に替わる新たな交通の検討に取り組んでいます。その状況は青梅市公共交通協議会の報告として青梅市ホームページに掲載されています。今回は、掲載内容に青梅市への現状確認内容を加えて記載します。

## 赤字路線への公共負担の実施

市内の赤字路線の一部に対しては、その路線維持の重要性により昭和59年度から公共負担(不採算路線に対する補助金)が行われており、現在、青梅市の公共負担額は年間約1億3千万円となっています。都営バスでは、赤字額の1/3を東京都が、2/3を青梅市が負担しており、小曾木地区と成木地区を循環している「梅74」路線への公共負担は約2千9百万円となっています。

## 成木地区での取り組み状況

現在取り組み中のため確認はできませんでしたが、ホームページへの記載をみると、目標となる収支率が40%(運行に必要な金額の40%の運賃収入がある)以上の確保を青梅市は限度としており、「梅76」路線

は新たな交通を走らせるにしても採算上、「現在の乗車人数調査の結果では継続できない、継続できなかった時には何もなくなってしまう」、「利用の促進が必要」、「住民に危機感がない」などの主な意見が掲載されている状況です。

## 今すぐに、できることは

将来的な対応策は検討を進めるとしても、まずは路線維持のためには積極的にバスに乗車する機会を増やすことが大切と感じました。参考に青梅市立第七小学校前から東青梅駅方面行きの現在の時刻表を掲載します。徐々に減便されているのが現実ですが、7時台のように計5本ある時間帯もあります。

**青梅第七小前 バス時刻表**

西武バス 河辺駅南口行(東青梅→河辺) 飯41、41-1、42  
都営バス 裏宿町行(小曾木→東青梅→青梅→裏宿) 梅74甲・乙

時刻	平日	土曜	休日
5			
6	07都才 18都シ	18都シ 53都	18都シ 59都才
7	01都才 10西東 20都 33西東 48都	08西東 31都	08西東 34都
8	49都河	05西東 54都シ	05西東 54都シ
9	08西東 57都河	41西東 46都河	41西東 52都河
10			44都
11	03西 58都才	8都 15西東	15西東 44都シ
12	33西東 41都	13都シ	36都
13	01都河	45都才	46都シ
14	03都シ 13西	03西東	03西東
15	09都河 43西	25西東 51都河	25西東 36都シ
16	33西東 48都シ	44都	44都
17	56西	43西東	43西東
18	36西		
19			

都：都バス(河：河辺駅北口行、才：青梅駅前行、シ：青梅車庫前行)  
西：西武バス(東：東青梅駅行)

みんなでバスに乗ってバス路線を守りましょう!!

## 「たま発! ギャラリー」で小曾木の活動PR

東京都が多摩30市町村への誘致アピールとして魅力を発信する「多摩の魅力発信プロジェクト 30たまじまん大作戦!」のフェイスブックに小曾木地区の活動が掲載されました。このプロジェクトは、「住み替えのタイミングにある未就学児を持つ30代男女をターゲット」として町の魅力をSNSや新聞等で情報発信するもの。

稲刈り体験のような子ども達を楽しめる体験ができる地域で、地域の女性が中心となって自分たちも活動を楽しんでいる様子をアピールしました。



## ◎「おそき一斉メール」に登録を!!

地域情報を2週間に1回程度、また、緊急時に地域情報を登録された方に無料でメール配信しています。 [osokinogakkou@gmail.com](mailto:osokinogakkou@gmail.com) 下記アドレスに空メールを送ると登録できます。 ◎おそきだよりへの記事、行事、写真等の紹介をお願いします。



## 1面表題脇の乙黒地区の「オシドリ」の写真

今月の野鳥はオシドリ、夫婦愛の象徴でオスは特徴的な羽色、顔はまがたまの白、後頭部は冠羽、飾り羽が美しい。東北以北では夏鳥、冬は西日本に多い、冬は暖地へ移動する。この地域では冬に溪流や小沼で見られるが、成木川で観察する機会は少ない。(撮影、文：山崎弘)

## 編集後記

1月の考える会の会議で、奥多摩町の少子・高齢化対策について学びました。現状の問題点は \*出生数の低下 \*子どものいない地域(自治会)が増加 \*27年度から中学校が1校に減少(統合) \*子育て家族が減少(生産年齢人口の減少) \*活動できる人材の流出 \*空家の増加 などです。

まさに、これは、小曾木地区と同様です。奥多摩町は行政が中心に長期総合計画で、重点施策として「奥多摩創造プロジェクト」を推進しております。今回、当会では「小曾木地区総合意識アンケート」に取り組み、中学生をはじめ、たくさんの方々に回答を寄せていただき感謝しております。奥多摩の取り組みなども参考にしながら、みなさんの声を地域の活動につなげていきたいと思っております。(島田福美)